

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(世界ランクシリーズ: <http://mylibrary.maeda1.jp/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0568

(注)本稿は 2022 年 9 月 18 日から 27 日まで 7 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

掲載日:2022.9.28

前田 高行

10 年間で 2 倍に伸びた中国の軍事費:世界及び中東主要国の軍事費と武器輸出入

(世界ランクシリーズ その7 2022年版)

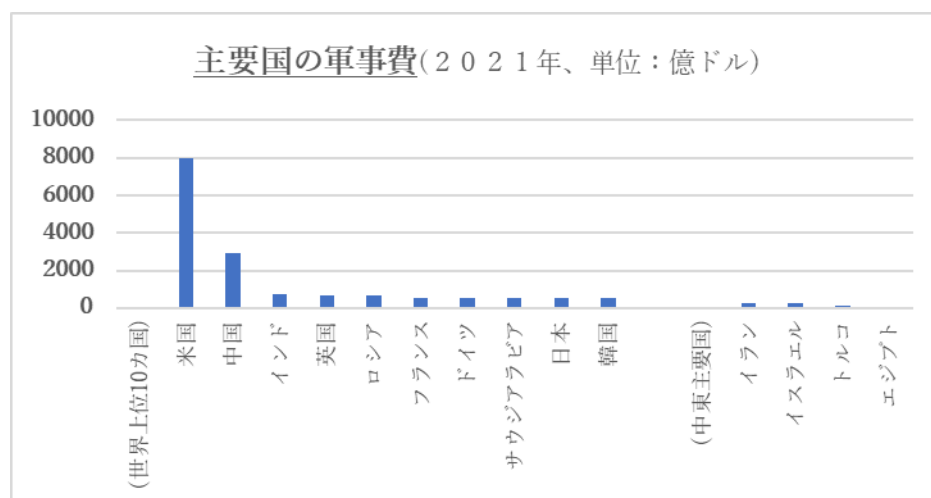
国連などの国際機関あるいは世界の著名な研究機関により各国の経済・社会に関するランク付け調査が行われている。これらの調査について日米中など世界の主要国及びトルコ、エジプト、イランなど中東の主要国のランクを取り上げて解説するのが「世界ランクシリーズ」である。

第7回の世界ランクは、スウェーデンの「ストックホルム国際平和研究所 (Stockholm International Peace Research Institute, 略称SIPRI)」のホームページに発表されたデータベースの中から SIPRI Military Expenditure Database 及びSIPRI Arms Transfers Database を取り上げ、2021年の世界と中東主要国の軍事費、一人当たり支出、GDPに占める比率及び政府歳出に占める割合を比較する。また2012年から2021年までの10年間にわたる各国の武器輸出入合計額についても分析する。

* SIPRI ホームページ: <http://www.sipri.org/databases>

(圧倒的な米国の軍事費、2位中国の3倍、日本の15倍！)

1. 軍事費支出の比較



世界で軍事費が最も多いのは米国で2021年の支出額は8,007億ドルである。同年の世界全

体の軍事費は2兆771億ドルであり、同国だけで世界の4割弱を占めている。これに次ぐのは中国の2,934億ドルであるが、米国の3分の1強にとどまっている。それでも中国の軍事費が世界に占める割合は14%であり、米国と中国二カ国を合わせると世界の軍事費の5割を超える。

これら2カ国に続くのがインド(766億ドル)であり、世界全体の4%を占めている。4位から10位までは、英国(684億ドル)、ロシア(659億ドル)、フランス(566億ドル)、ドイツ(560億ドル)、サウジアラビア(556億ドル)、日本(541億ドル)及び韓国(502億ドル)の各国である。因みに日本の軍事費を他国と比べると、米国は日本の15倍、中国も日本の5倍である。また韓国は日本をわずかに下回る規模である。

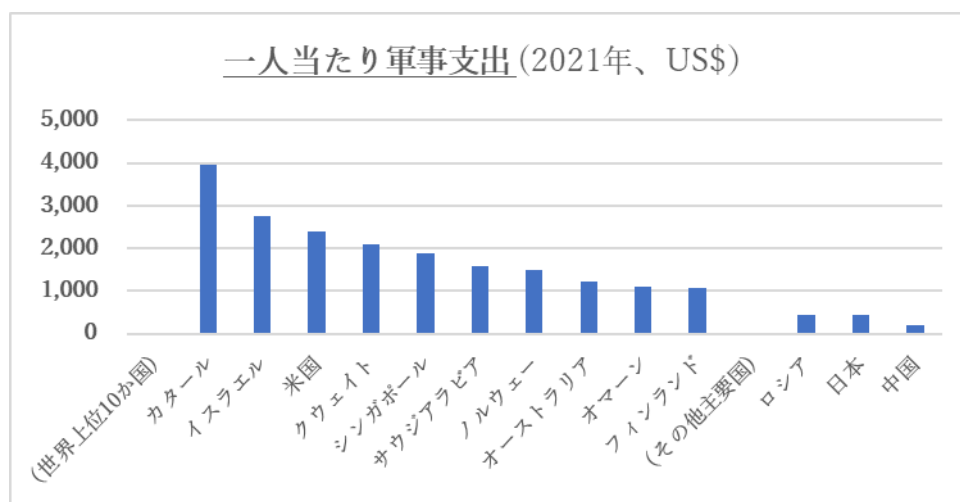
中東の主要国を見ると、サウジアラビアが556億ドル(世界8位)、イラン246億ドル(同14位)、イスラエル243億ドル(世界15位)、トルコ155億ドル(同18位)である。エジプトは中東で人口が最も多く、軍が国家権力を握っているが、経済規模が小さいため、軍事費は52億ドルにとどまっている。これはサウジアラビアの10分の1以下、イスラエルの5分の1であり、世界43位の規模である。

(注)UAE の軍事費について:

SIPRI の統計では UAE の軍事費は2014年以降明示されていないが、2014年以前の同国の軍事費はイスラエル、トルコ、イランを上回っており、世界10位前後に位置している。また、後述する通り2012年から2021年までの10年間の武器輸入額はオーストラリアに次ぐ世界6位の規模である。これらのことから UAE の軍事費は世界のトップテンに並ぶものとみて間違いない。

(一人当たり軍事費世界一はカタールの3,955ドル、中国は203ドル！)

2. 一人当たりの軍事費



国民一人当たりの軍事費が世界で最も多いのはカタールであり3,955ドルに達する。2位はイスラエルの2,769ドルでカタールの7割である。3位、4位はそれぞれ米国(2,405ドル)及びクウェイト(2,085ドル)で、一人当たり軍事費が2,000ドルを超えるのはこの四カ国だけである。以下5位から10位はシンガポール、サウジアラビア、ノルウェー、オーストラリア、オマーン及びフィンランドの各国である。

上位10カ国の顔ぶれにはカタール、クウェイト、サウジアラビア、オマーンのGCC4カ国が並んでいる。サウジアラビアを除きいずれも人口が少なく、豊富な石油収入により一人当たりの軍事費が大きい。すでに触れた通り同じGCCのUAEは今回のSIPRI統計では明示されていないが、同国も人口が少なく、一人当たりの軍事費がカタールと肩を並べる世界トップクラスであることは間違いないと言えよう。

極東アジアの主要な国は韓国が13位(979ドル)に入っている。また台湾は26位(543ドル)、ロシア31位(452ドル)、日本33位(429ドル)である。軍事大国中国の一人当たり軍事費は203ドルで世界54位、インドは55ドルで世界88位である。中東イスラム諸国ではイランが289ドル(世界45位)であり、トルコは182ドル(世界57位)、エジプトは50ドル(同95位)である。

日本の一人当たり軍事費は429ドルであるが、日本を1とした場合、カタールは9.2倍、米国は5.6倍、サウジアラビア3.7倍、韓国2.3倍であり、一方中国は日本の2分の1、インドは9分の1である。

(上位10カ国のうち8カ国が MENA !)

3. 軍事費の GDP 比率



各国のGDPに占める軍事費の比率を見ると、世界1位は中東のオマーンであり、その比率は7.34%である。2位も同じ中東のクウェイトの6.69%である。3位以下の国とその比率は次のとおりであり、11位のロシアまでがGDP比率4%を超えている。

サウジアラビア(6.59%)、アルジェリア(5.59%)、アゼルバイジャン(5.27%)、イスラエル(5.17%)、ヨルダン(5.02%)、カタール(4.81%)、アルメニア(4.44%)、モロッコ(4.18%)、ロシア(4.08%)

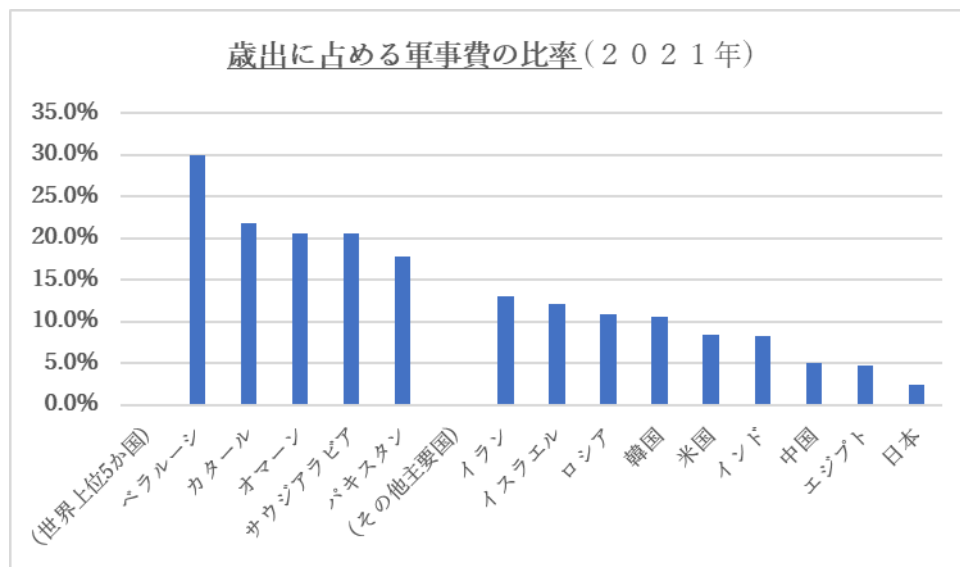
上位10カ国の顔触れを見ると中東・北アフリカ(MENA)が8カ国、東欧・中央アジアが2カ国であり、

中東・北アフリカ(MENA)諸国が多い。その他の2カ国も中東と隣接したユーラシア地域にあり、世界の紛争地帯の国々が過大な軍事費を負っている姿が浮かび上がる。地域の大国であるイラン、トルコ及びエジプトは軍事費総額ではそれぞれ世界14位、18位、43位であるが、GDP比率はイラン2.30%、トルコ2.06%、エジプト1.30%で、世界順位はそれぞれイラン36位、トルコ45位、エジプト94位である。

その他の主要国を見ると米国は3.48%、韓国2.78%、インド2.66%、英国2.22%、中国1.74%などである。日本のGDP比率は1.07%、世界108位であり欧米先進国の中でも最も低い水準である。

(歳出の2割が軍事費を占める湾岸諸国！)

4. 歳出に占める軍事費の比率

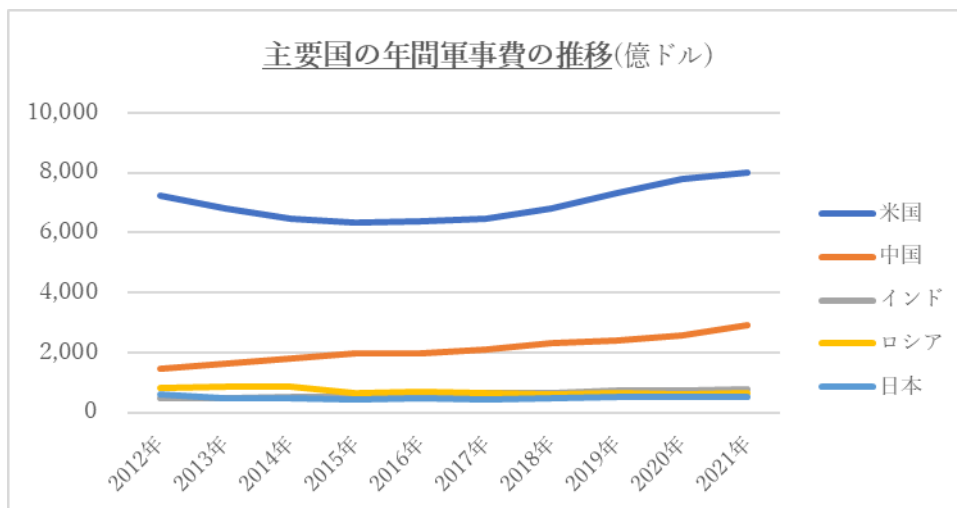


次に歳出に占める軍事費の比率を見ると、世界1位は東欧の独裁国家ベラルーシであり、同国は歳出の三割を軍事費に充当している。第2位から第4位にはカタール(21.71%)、オマーン(20.56%)及びサウジアラビア(20.52%)が並んでいる。20%を超えるのは以上の4カ国であり、GCC3カ国が名前を連ねていることは注目される。サウジアラビアの軍事費は金額で世界8位、一人当たりでは世界6位、GDP比率では世界3位である(1~3節参照)。世界最大の産油国の一つである同国は軍備に金を惜しまない国であることを示している。

その他主要国の比率を比べると、イランは世界14位の12.96%、イスラエル12.14%、ロシア10.79%、韓国10.47%が10位台後半から20位台前半に並んでいる。米国は8.32%、インド8.27%、トルコ6.27%である。軍事費総額で米国に次ぐ世界2位の中国は歳出に占める比率は5.03%で世界63位にとどまっている。日本は2.47%であり、これは世界125位に相当する。世界的に見ると日本の軍事支出は少ないと言えよう。

(中国は10年間で2倍、インドは1.6倍増、日本は横ばい状態！)

5. 主要国の軍事費の推移(2012年~2021年)



主要国の過去10年間(2012年～2021年)の軍事費の推移を比較すると、2012年の軍事費は米国が7,252億ドルで最も多かく、これに次ぐのは中国の1,451億ドルであった。米国と中国の1,2位は10年間変わっていないが、両国の格差は2012年の5倍から2021年には2.7倍に縮小しており、中国の軍事費が急速に膨張していることがわかる。

米国の軍事費は2012年以降年々減少し2015年には1千億ドル減の6,338億ドルになったが、その後は年々増加し2021年には8千億ドルを超えている。これに対して中国の軍事費は毎年着実に増加、2017年には2千億ドルを突破、2021年は2,934億ドルと10年間で2倍に増加している。

インドも中国と同様毎年軍事費は増加し2012年の472億ドルから2021年には1.6倍の766億ドルに増加しており、世界順位も8位から3位に上がっている。

これら3カ国に対して日本及びロシアの軍事費は横ばいまたは減少している。日本の2012年の軍事費は600億ドルであり、過去10年間では最も多い水準であった。その後2018年までは400億ドル台に減少、2019年以降増加の兆しを見せて2021年の軍事費は541億ドルであった。この結果10年前は世界5位であったが、2021年の世界ランクは9位である。またロシアは10年前は815億ドル、米国、中国に続く世界3位の軍事大国であったが、2021年の軍事費は659億ドル、10年前の8割の水準に落ち込み、世界ランクも5位に下がっている。

英、仏、独とイタリアの西欧4カ国及び韓国は軍事費世界ランク上位の常連国であるが、2012年と2021年の金額と世界ランクを示すと以下のとおりである。

英国:	655億ドル(2012年、世界4位)	→	684億ドル(2021年、同4位)
フランス:	502億ドル(2012年、世界7位)	→	566億ドル(2021年、同6位)
ドイツ:	438億ドル(2012年、世界9位)	→	560億ドル(2021年、同7位)
イタリア:	298億ドル(2012年、世界12位)	→	320億ドル(2021年、同11位)
韓国:	320億ドル(2012年、世界11位)	→	502億ドル(2021年、同10位)

また中東の軍事大国サウジアラビア、イスラエル、トルコ、イラン及びエジプト5カ国について同様の傾向を見ると次のとおりである。

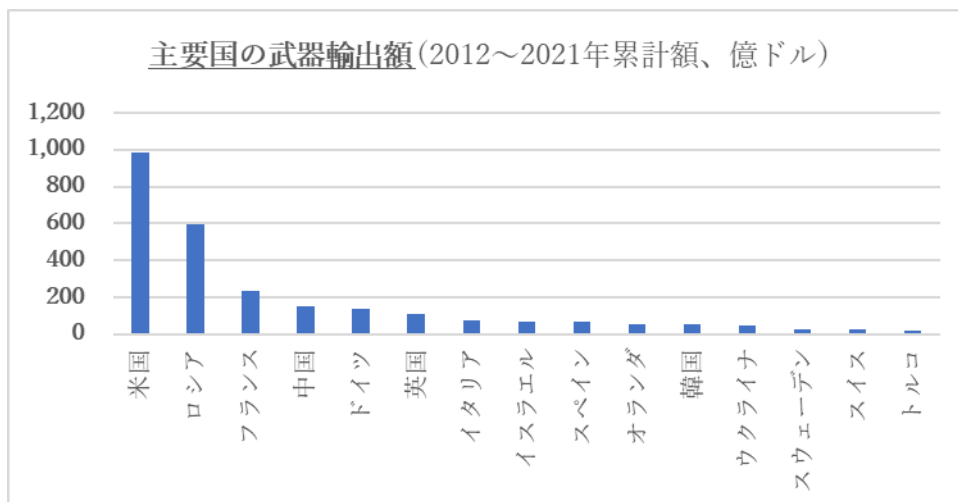
サウジアラビア: 565億ドル(2012年、世界6位) → 556億ドル(2021年、同8位)
 イスラエル: 145億ドル(2012年、世界19位) → 243億ドル(2021年、同15位)
 トルコ: 177億ドル(2012年、世界17位) → 155億ドル(2021年、同18位)
 イラン: 165億ドル(2012年、世界18位) → 246億ドル(2021年、同14位)
 エジプト: 46億ドル(2012年、世界40位) → 52億ドル(2021年、同43位)

6. 世界の武器輸出国と輸入国

ここでは世界の武器の輸出入額を取り上げる。各国の輸出額あるいは輸入額は年度によって大きく変動するため、2012年から2021年までの10年間の合計額について比較検討を行う。

(世界の二大武器輸出国—米国とロシア！)

(1) 主要国の武器輸出額(2012年～2021年合計額)



2012年から2021年までの10か年間の武器輸出累計額は世界全体で約2,800億ドル強であり、年間平均では280億ドルであった。国別では米国とロシアが際立って多く、米国の10年間の輸出総額は985億ドル、ロシアは597億ドルであった。世界全体に占める割合はそれぞれ35%及び21%であり、2か国を合わせると世界の武器輸出額の6割近くを占めている。

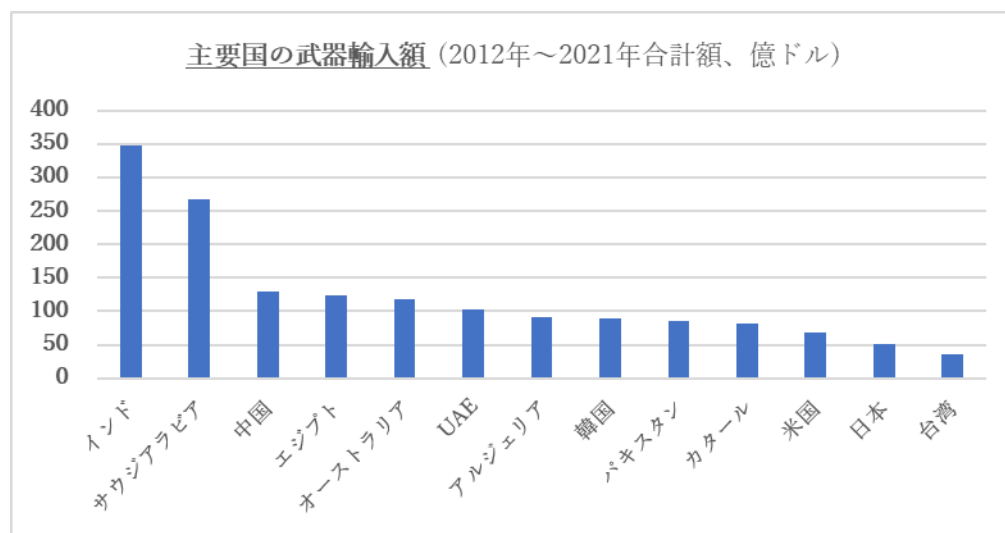
米国、ロシアに次いで輸出額が多いのはフランスの236億ドルであるが、米国あるいはロシアの2乃至4分の1にとどまっている。これに続いて輸出額が100億ドルを超えているのは中国(154億ドル)、ドイツ(138億ドル)、英国(108億ドル)である。なお次項(輸入額)に触れるとおり中国は輸入額でも世界第3位であり武器貿易大国である。

武器輸出額7位から10位はイタリア、イスラエル、スペイン及びオランダである。上位10か国のうちEU諸国が6カ国を占めており、EUは世界的な武器生産地域であることがわかる。なお上位10カ国は戦闘機、艦船、戦車、ミサイルなど高額な兵器を得意としているため輸出額が膨らんでいる。しかし世界の多くの紛争地域では小銃、機関銃、地雷、ロケットなど小型火器が使われている。その

意味ではウクライナ(輸出総額45億ドル、世界12位)、トルコ(同22億ドル、世界15位)などは、米国あるいはロシアに比べ金額的には少ないが影響力は小さくないと言えよう。このうちトルコは攻撃型 UAV(ドローン)の輸出に力を入れているが、このような比較的安価な IT 兵器はトルコを含めた開発途上国の有力な輸出商品になるものと思われる。

(武器輸入額ではインドが世界一、日本は世界17位！)

(2) 主要国の武器輸入額(2012年～2021年合計額)



2012年から2021年までの10か年間の武器輸入合計額は世界全体で2,800億ドル強であった。国別ではインドが最も多く同国の輸入額は347億ドル、世界全体の13%を占めており、輸入国第2位はサウジアラビアの267億ドルで世界シェアは10%である。因みに過去5年間のインドの輸入相手国はロシアが最も多く全体の46%を占め、次いでフランスである。サウジアラビアの場合は82%を米国が占めている。

第3位は中国の129億ドルであるが、前項でも述べた通り同国は輸出額では世界第4位であり、武器貿易が活発なことを示している。中国に次いでエジプト、オーストラリア及び UAE が輸入額100億ドル(年平均10億ドル)を超えている。7位から10位はアルジェリア、韓国、パキスタン、カタールでその輸入額は90～80億ドル(年平均9～8億ドル)である。因みに日本の過去10年間の武器輸入累計額は50億ドル、年間平均5億ドルであり、世界17位に相当する。日本の場合、軍事費(2021年、541億ドル、第1項参照)に比べ輸入額の割合が小さいのは武器の国産化が進んでいるためと考えられる。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp